

Jミルクが2022年9月30日に公表した「需給見通し(※2022年7月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

「製品価格改定1週目の家庭内消費は前週よりも微減～消費への影響は今後も注視が必要～」

・9月の需給状況について、都府県の生乳生産は8月に続き前年を下回り、北海道は今年度初めて前年を下回ることとなったことから、全国では、今年度最大の減少率となった。直近(10月下旬)の全国指定団体受託乳量が今年度最大減少率を更新しており、10月月間の生産生産量も前年を下回ることが考えられる。一方、飲用等向は相次ぐ物価高による家計防衛意識の高まりもあり、冷夏であった昨年9月と同水準となった。結果、乳製品向は生乳生産量の減少分が影響し、前年を下回ることとなった。

・乳製品向の仕向量減少から脱脂粉乳・バター生産量も減少しており、脱脂粉乳は全国協調在庫解消策と北海道(ホクレン)独自の国産脱脂粉乳への置換対策の効果による出回りの増加も重なったことで、在庫量は前月に比べ減少した。バターについては、業務用需要が回復傾向にあるため推定出回りは前年を上回っており、輸入売渡分を考慮しても在庫量は前月よりも減少した。両品目ともに在庫量は減少傾向にあるものの、依然として高い水準が継続しているため在庫対策を含めた需要確保対策による在庫消化が欠かせない。

・10月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比98.2%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):101.0%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向があるため、Jミルク予測値水準並みに推移している可能性が考えられる。

・直近の動向は、生乳生産は生産抑制の効果や搾乳牛頭数の推移、今年度の粗飼料の出来を総合すると、今後も前年を下回って推移すると予測される。一方で、直近(10/31週)の牛乳類販売個数は、飲用等向乳価引き上げに伴う製品価格改定による消費の減退が一定程度影響していると考えられ、前週よりもやや減少した。7日から価格改定を実施している小売・流通があることから、直近だけでは価格改定の影響を判断することは適切ではなく、今後も動向を注視する必要がある。

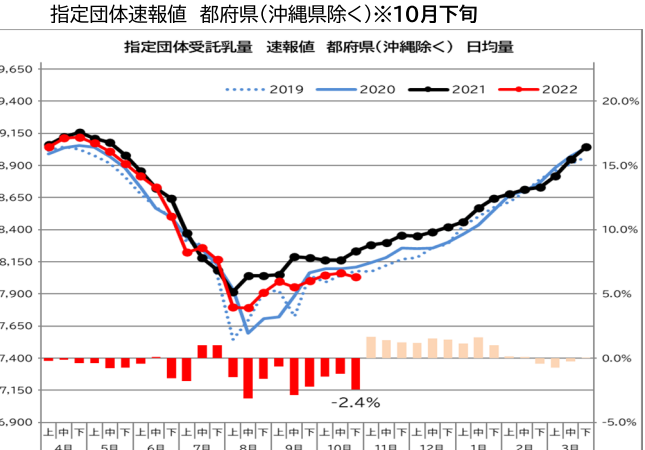
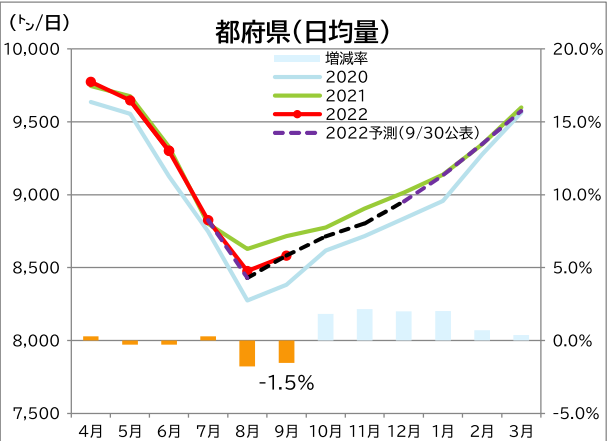
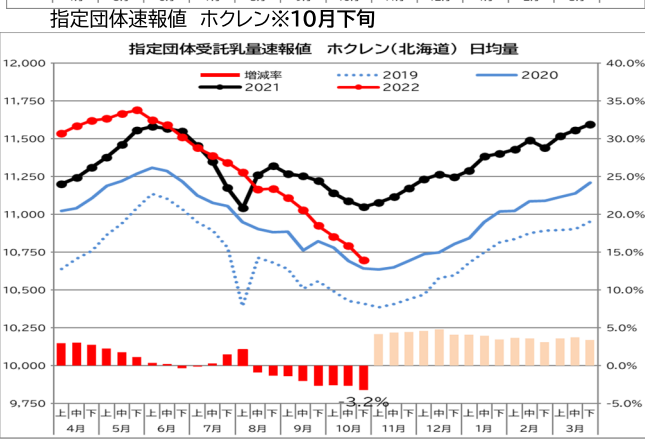
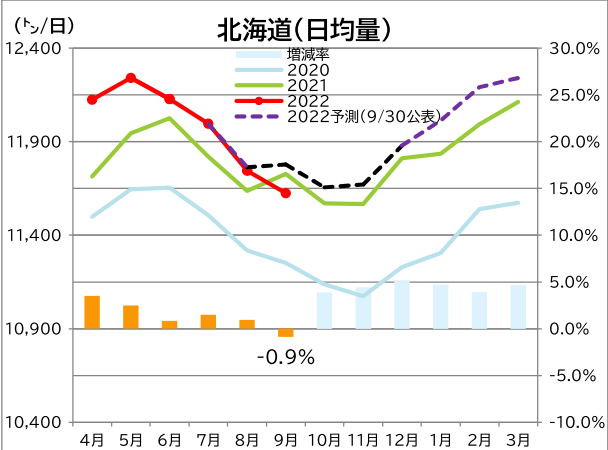
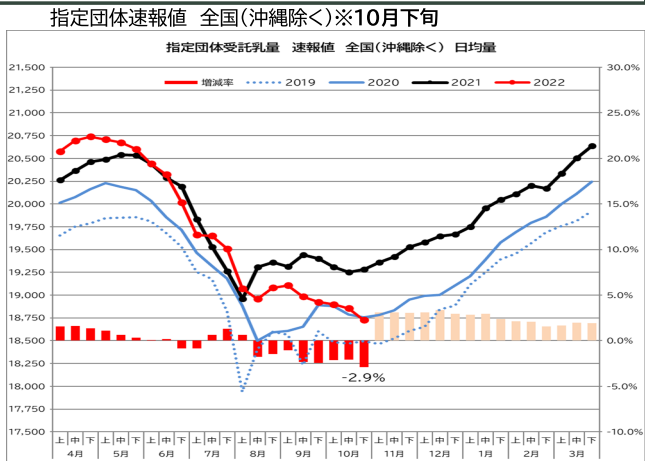
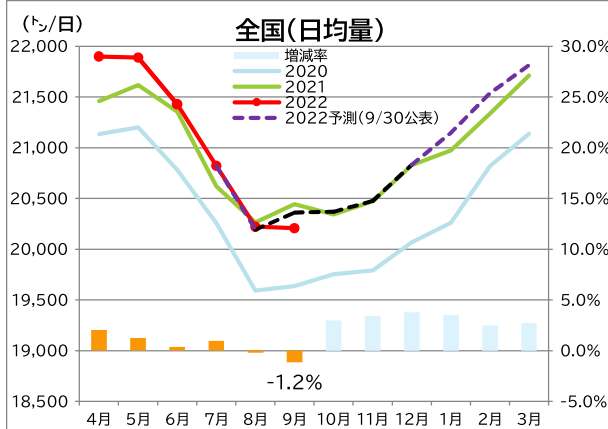
・上記のとおり、現段階では製品価格改定による影響が明確ではないものの、年末年始を始めとする学乳休止期の需給緩和は昨年を上回る水準となる可能性も想定される。生産抑制の着実な取り組みとともに、引き続き「牛乳でスマイルプロジェクト」を通じた業界の垣根を超えた消費喚起への機運を高めるとともに、業界内でも積極的に需要拡大を実施し、一体的に市場の活性化に取り組むことが求められる。

【生乳生産量】※増減率は、日量で算出。

(1)9月の生乳生産量は、全国606.2千ト(前年同月比98.8%)、北海道348.7千ト(同99.1%)、都府県257.5千ト(同98.5%)。

(2)Jミルク予測値(全国610.8千ト、北海道353.3千ト、都府県257.5千ト)との比較は、北海道は下振れ、都府県は予測並み、全国で下振れとなった。

(3)直近の指定団体速報値は10月下旬で全国が同97.1%、都府県(沖縄除く)が同97.6%、北海道は同96.8%となっている。



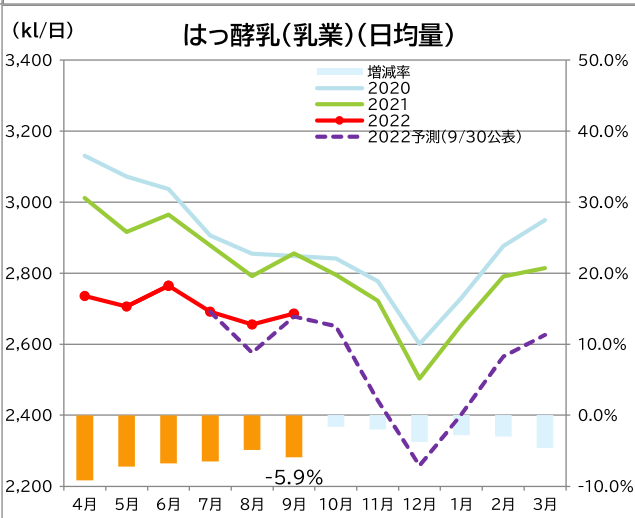
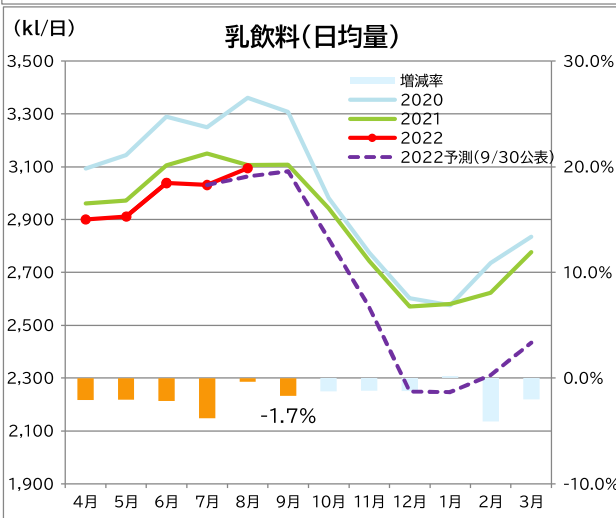
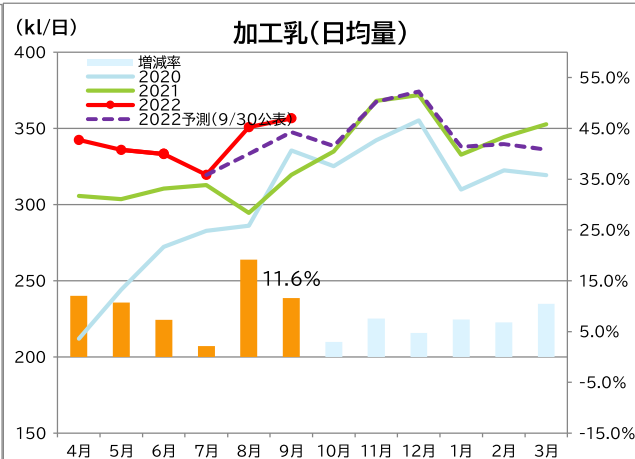
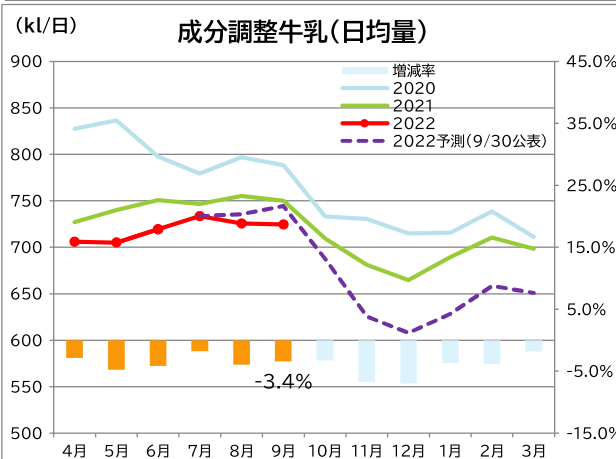
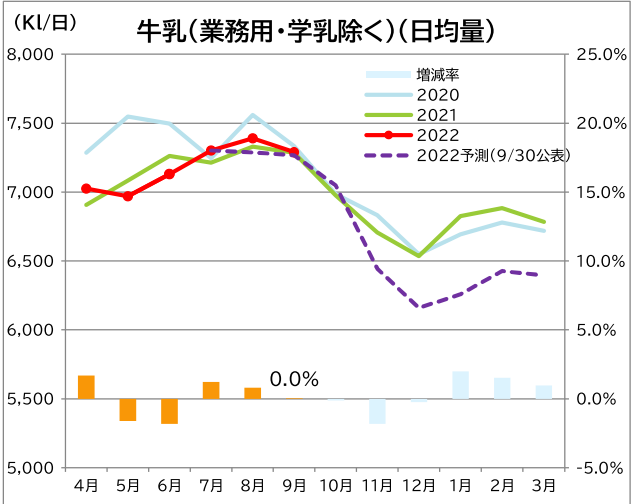
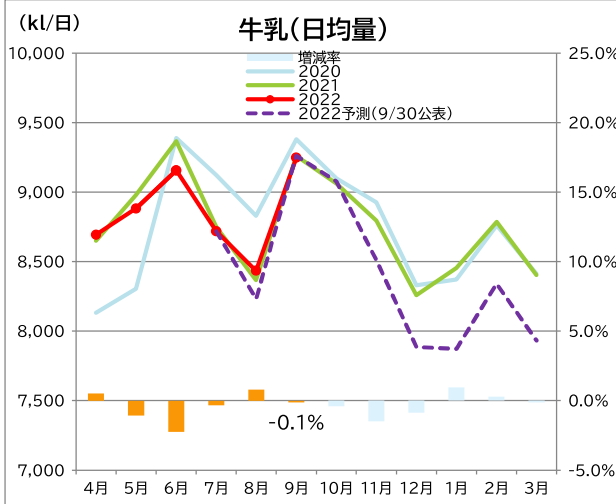
【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)9月の牛乳等生産量は、牛乳277.5千kl(前年同月比99.9%)、成分調整牛乳21.7千kl(同96.6%)、加工乳10.7千kl(同111.6%)、乳飲料91.7千kl(同98.3%)となり、牛乳類合計では401.6千kl(同99.6%)となった。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.0%、「業務用」は同94.9%、「学乳」は102.7%。

(3)はっ酵乳(乳業)は80.6千kl(同94.1%)と前年を下回って推移している。

また、非乳業実績(8月)については、同107.4%と前年を上回った。

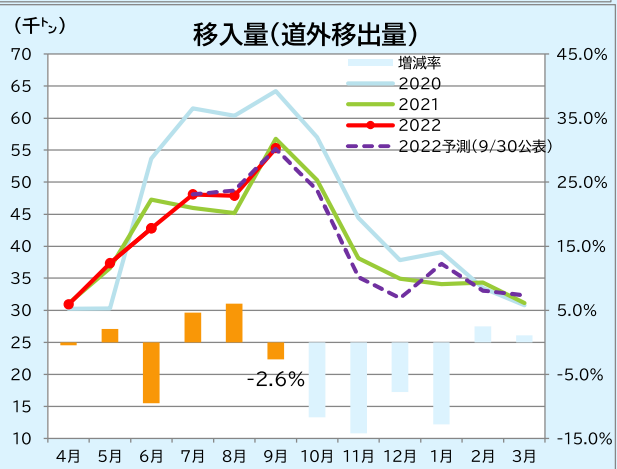
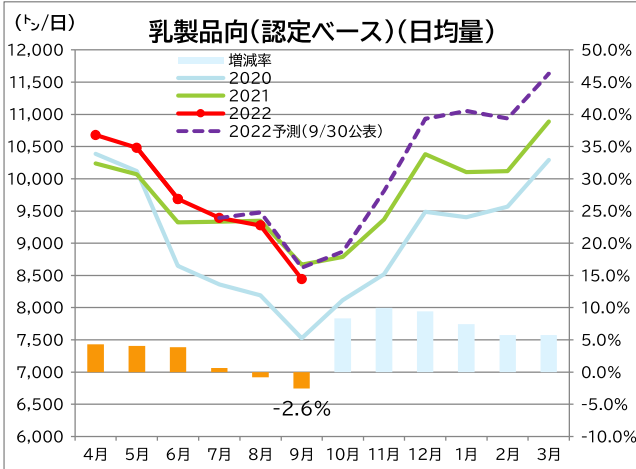
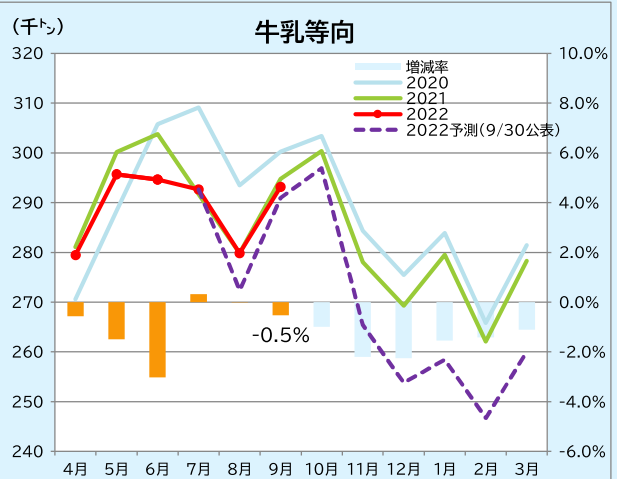
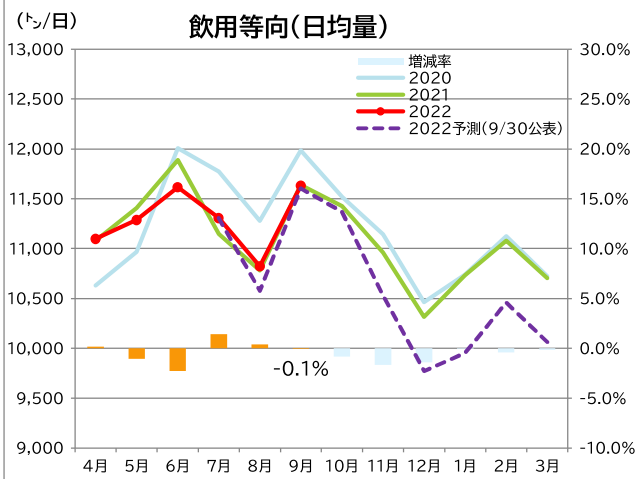
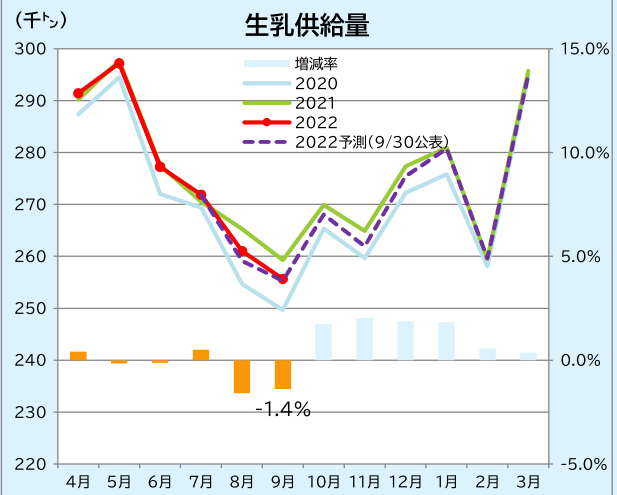
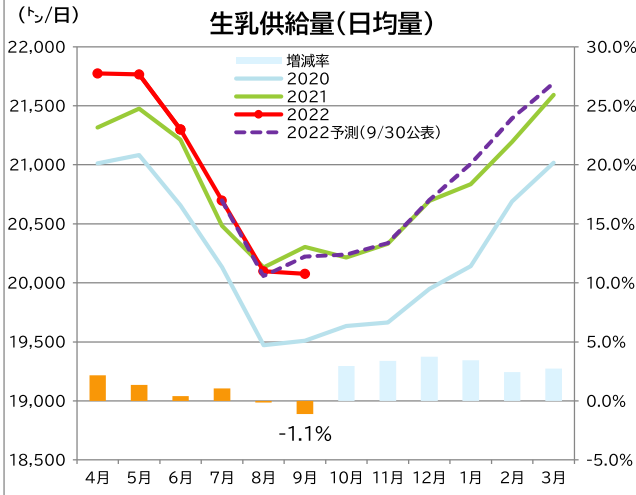


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)9月の生乳供給量は602.3千ト(前年同月比98.9%)、飲用等向349.0千ト(同99.9%)、乳製品向(認定ベース)253.3千ト(同97.4%)。
 (2)飲用等向は前年並みであったが、生乳供給量が前年を下回ったため、乳製品向は前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:606.7千ト)は下振れ、飲用等向(予測値:348.1千ト)は予測値並み、結果乳製品向(予測値:258.6千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)9月は、生乳供給量255.6千ト(前年同月比98.6%)、牛乳等向293.2千ト(同99.5%)。
 (2)北海道からの移入量について、55.3千ト(同97.4%)と前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:255.3千ト)は予測値並み、牛乳等向(予測値:290.9千ト)はやや上振れ、北海道からの移入量は(予測値:55.2千ト)は予測値並みとなった。



【牛乳類の販売速報(推定値): インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)10月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比98.3%、成分調整牛乳:同97.9%、加工乳:同97.2%、乳飲料:同97.9%。
牛乳類では同98.2%

【参考】2020年度比…牛乳:96.3%、成分調整牛乳:94.2%、加工乳:99.8%、乳飲料:90.5%(牛乳類トータル:95.3%)

・販売単価は、牛乳:190.2円、成分調整牛乳:173.7円、加工乳:190.1円、乳飲料:149.7円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(10.31週)の販売個数は、牛乳:前年同期比97.5%、成分調整牛乳:同98.7%、加工乳:同100.0%、乳飲料:同101.6%。
牛乳類トータルでは同98.3%

【参考】2020年度比…牛乳:93.6%、成分調整牛乳:93.0%、加工乳:101.3%、乳飲料:92.7%(牛乳類トータル:93.6%)

【参考】2019年度比(コロナ禍前)…牛乳:96.0%

・販売単価は、牛乳:199.0円、成分調整牛乳:181.6円、加工乳:195.7円、乳飲料:154.3円。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

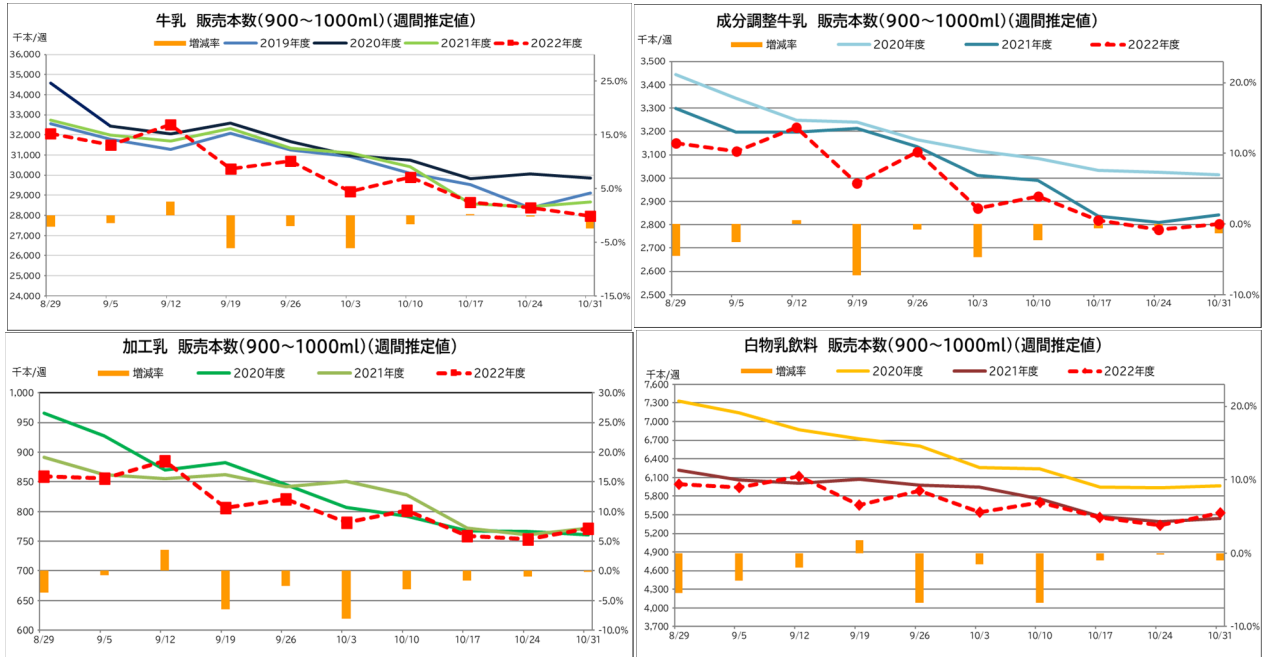
単位:千個、円

品目	区分	2022/5-	2022/6-	2022/7-	2022/8-	2022/9-	2022/10-
トータル	販売個数	172,087	170,992	186,323	187,097	175,657	171,212
	販売個数前年比	93.0	94.3	98.7	96.5	97.6	98.2
	販売単価	182.8	182.9	182.9	183.7	183.4	183.1
牛乳	販売個数	130,782	129,838	142,239	143,408	133,609	130,277
	販売個数前年比	92.7	94.1	98.8	97.1	97.7	98.3
	販売単価	189.7	189.9	189.8	190.6	190.4	190.2
成分調整牛乳	販売個数	13,149	12,977	13,756	13,647	13,243	12,796
	販売個数前年比	95.1	96.7	98.8	94.3	97.1	97.9
	販売単価	173.7	173.9	174.1	174.8	174.4	173.7
加工乳	販売個数	3,566	3,545	3,782	3,767	3,598	3,476
	販売個数前年比	97.2	98.5	99.4	95.2	97.9	97.2
	販売単価	189.9	189.5	190.6	190.3	190.5	190.1
乳飲料	販売個数	24,590	24,632	26,545	26,276	25,207	24,664
	販売個数前年比	92.6	93.4	98.0	95.0	97.2	97.9
	販売単価	149.9	149.8	149.6	149.9	150.1	149.7

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	9.12-	9.19-	9.26-	10.3-	10.10-	10.17-	10.24-	10.31-
トータル	販売個数	42,725	39,757	40,513	38,395	39,317	37,690	37,241	37,066
	販売個数前年比	102.3	93.7	98.1	93.9	98.3	100.0	99.6	98.3
	販売単価	183.8	183.3	182.9	183.4	182.9	183.1	183.3	191.0
牛乳	販売個数	32,511	30,316	30,693	29,203	29,901	28,649	28,373	27,965
	販売個数前年比	102.5	93.8	97.9	93.9	98.3	100.2	99.8	97.5
	販売単価	190.7	190.3	190.1	190.6	190.0	190.2	190.3	199.0
成分調整牛乳	販売個数	3,216	2,979	3,111	2,871	2,921	2,820	2,778	2,803
	販売個数前年比	100.6	92.7	99.2	95.3	97.7	99.4	98.9	98.7
	販売単価	174.4	174.3	173.6	174.1	173.3	174.0	173.9	181.6
加工乳	販売個数	885	806	821	782	802	759	754	771
	販売個数前年比	103.5	93.4	97.5	91.9	96.9	98.4	99.1	100.0
	販売単価	191.4	190.4	190.1	189.5	189.8	189.8	190.9	195.7
乳飲料	販売個数	6,113	5,656	5,888	5,539	5,694	5,462	5,336	5,526
	販売個数前年比	101.8	93.2	98.5	93.2	99.0	99.8	99.0	101.6
	販売単価	150.6	150.0	149.5	149.7	149.5	149.3	149.9	154.3

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(10/31週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

一昨年比ではドリンクタイプは90%以上、個食タイプ90%以上、大容量90%以上となっている。

(2)前週(10/24週)と比較し、販売個数についてドリンク、大容量タイプは微減、個食タイプは減少した。ドリンクタイプは4週連続で前年を上回った。なお、はっ酵乳向乳価の引き上げに伴う製品価格改定が一部反映されているとみられる。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表④ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	9.12-	9.19-	9.26-	10.3-	10.10-	10.17-	10.24-	10.31-
ドリンクタイプ	➡	⬇	➡	⬇	➡	➡	➡	➡
個食タイプ	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
大容量タイプ	➡	⬇	⬇	⬇	⬇	➡	⬇	⬇

- ⬇ : 前年比90%未満
- ⬆ : 前年比105%以上110%未満
- ⬇ : 前年比90%以上100%未満
- ⬆ : 前年比110%以上120%未満
- ➡ : 前年比100%以上105%未満
- ⬆ : 前年比120%以上

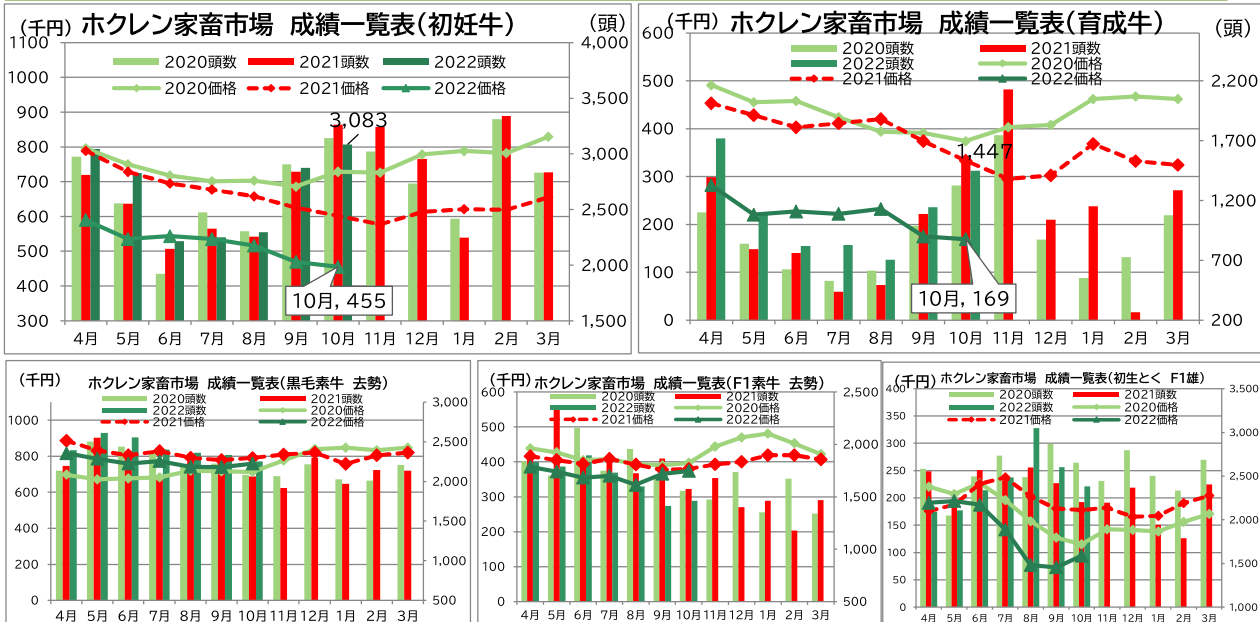
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)10月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は455千円(前年同期比75.6%)、育成牛価格は169千円(同50.8%)、和牛素牛(去勢)価格は759千円(同96.1%)、F1素牛(去勢)価格は374千円(同98.4%)、F1初生(雄)価格は94千円(同52.9%)。初妊牛は前月に引き続き50万円を下回り、F1初生(雄)は3ヶ月連続で10万円を下回った。

(2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同94.5%、育成牛:同93.9%、和牛素牛(去勢):同109.2%、F1素牛(去勢):同92.9%、F1初生(雄):同108.1%。

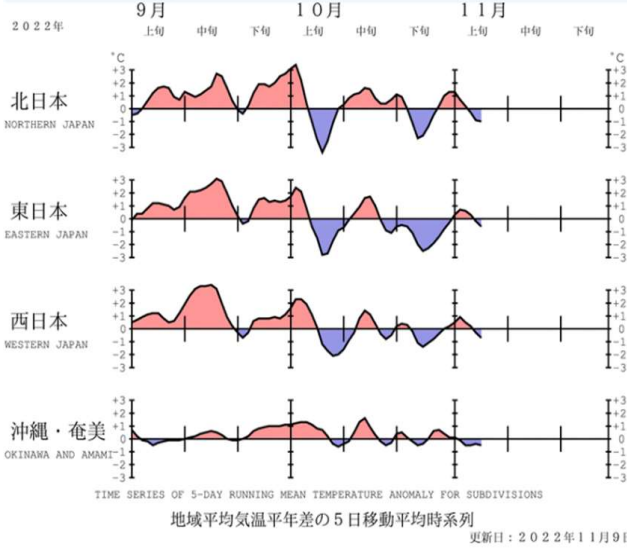
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



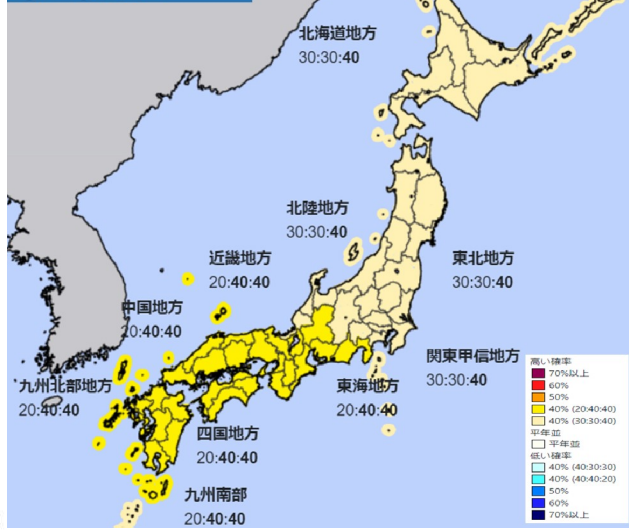
【気象庁HPより全国1ヶ月予報(11/05-12/04)抜粋】

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。東・西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は、西日本で平年並または高い確率ともに40%です。※出典:気象庁

前3か月間の気温経過



2022年11月03日14時30分発表
11/05-12/04の気温



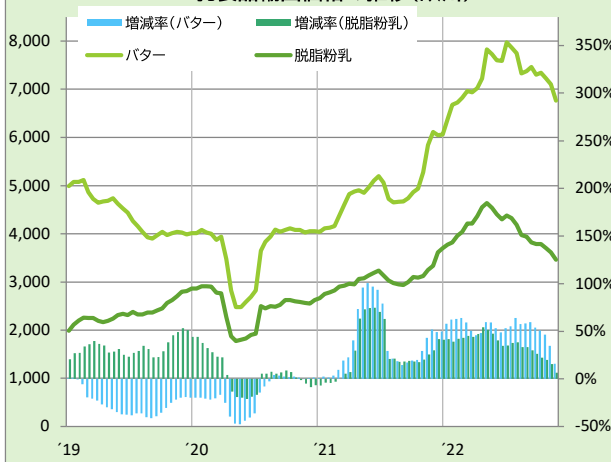
【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(10月下旬)

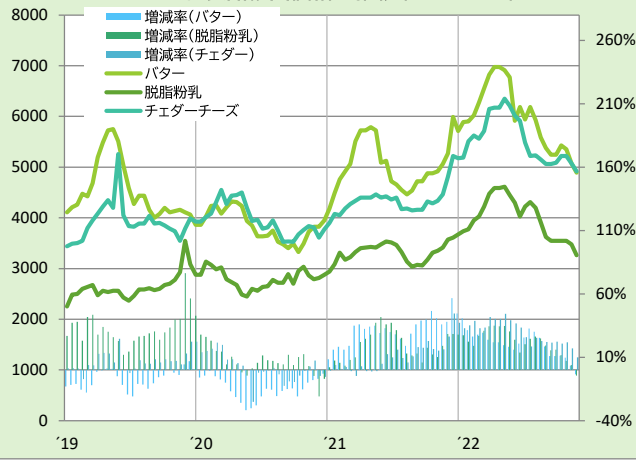
- ・欧州:脱脂粉乳3,450ドル/ト、バター6,750ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳3,250ドル/ト、バター4,900ドル/ト、チェダーチーズは4,900ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)

(US\$ / ト) F.O.B.port 乳製品輸出価格の推移(欧州)



(US\$ / ト) F.O.B.port 乳製品輸出価格の推移(オセアニア)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」